

Title	Z工業会社の業績管理システムについての一考察
Sub Title	
Author	豊田亨(Toyoda, Tooru) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第290号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0290

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0290

学生氏名 豊田 享

主査 伏見 多美雄

副査 柳原 一夫

所属ゼミナール 伏見 多美雄 研

柴田 典男

Z工業会社の業績管理システムについての一考察

本論文は、生産財メーカーであるZ工業会社（以下Z社と呼ぶ）の業績管理システム上の問題点を、マネジメント・コントロール・システムの在り方と関連づけて検討し、改善案を提案することである。

まず、現実に起きている問題点とその基礎にある本質的な問題点を洗い出すことに努めている。その結果、(1) Z社は、外部報告会計ツールである全部原価計算を内部管理にも適用し、業績評価の基礎に置いているために、客観的な業績評価が下しにくい事。(2) 付替価格（内部振替価格）が、業績評価尺度として有効に働いていない事。(3) 部門の成果と成果に対する部門長の貢献度が明確に捉えていない事。等の問題点が浮かび上ってきた。

次に、これらの問題点を改善するための理論的背景となる業績評価システムと管理会計の在り方について検討し“直接原価計算制度に基礎を置いた業績評価とその管理”を根底としたシステム設計がポイントであることを主張した。

目標斉合性と評価の公平性を十分配慮しながら以下改善案を提案した。(1)直接原価計算の導入 (2)付替価格の変更 (3)本社管理費と金利費用の配賦の変更 (4)部門および部門長の業績評価システムのモデル設計

このことによりZ社の業績管理システムが有効に機能することが期待できる。